

外来種勉強会

長谷川先生のおはなし

平成29年5月14日 日曜日

天気 晴 中央図書館 AVルーム

ビオトープネットワーク中部会長の長谷川明子先生に来ていただき、お話しを伺いました。

オオキンケイギクや他の植物をパワーポイントで見ながら、外来生物がいてはなぜいけないのか？考えてみました。

先生の考えた絵描き歌に合わせ、鉛筆でオオキンケイギクの絵を描きながら、花びらや葉の特徴を勉強しました。



生物多様性について長谷川先生のお話

長谷川先生のお話から

1 私たちは、こんなところに住んでいます。

私たちが住んでいる日本は、生物多様性ホットスポットに指定されています。「生物多様性ホットスポット」とは、生物多様性が高いにも関わらず、破壊の危機に瀕している地域のこと。日本の自然の特徴として「固有種の宝庫」であるといえます。日本の固有種数は高等植物 5,565 種とイギリスの 1,623 種、ドイツの 2,632 種に比べると、面積のわりにかなり多いことが分かります。

その中で、特に愛知県は、日本で一番植物の種類が多い県となっています。このような、多様性に富んだ地域に私たちは住んでいるのです。



熱心に聞き入る参加者

2 COP10 での「愛知目標」の達成に向けて

2010（平成 22 年）、愛知・名古屋で開催された COP10（生物多様性条約第 10 回締結国会議）で 2050 年までの長期目標として「自然と共生する世界」の実現、2020 年までの短期目標として「生物多様性の損失を止めるために、効果的かつ緊急な行動を実施する」としたことが掲げられました。

最近では、ナガミヒナゲシという小さいオレンジ色の花をよく空き地等で見かけます。これは、特定外来種ではありませんが、1 個体 15 万粒の種子をつけることができ、とても繁殖力が強い植物です。このような、繁殖力の強い外来生物により、日本固有種を圧迫しています。

3 外来種対策

生態系や種を脅かす外来種対策の原則は、1・予防、2・撲滅、3・封じ込めです。

「オオキンケイギク」は、特定外来生物に指定されています。栽培や移動等、法律で禁止されており、違反した場合は罰金 300 万円が課せられています。似たような植物にオオハンゴンソウがあります。それとの違いを長谷川先生作の絵描き歌にのせて、みんなで描きながら学びました。

香流川で駆除作業

スタッフ合わせて約30人。

今日は、中央図書館から香流川の石田橋北側の土手へ・・・。

今年は開花が遅く、ここにはつぼみのオオキンケイギクがたくさん生えていました。

初夏の陽気で、みんな一生懸命汗を流して駆除しました。

駆除した後にニホンタンポポの種をまきました。

約1時間の駆除作業、お疲れ様でした。

たくさんのオオキンケイギクを大きなゴミ袋で29袋分、駆除できました。うち、2年前の外来種勉強会で駆除した場所は、5袋。2年前は24袋でしたので、かなり生息が少なくなってきました。これも、みなさんが、がんばって駆除したおかげです。

謝辞

今年は少ないのかな?と思った方、実は「香流川をきれいにする会」さんが、駆除をしていただいていたからだと考えています。

今回ご参加いただいた方も、あらためてお礼申し上げます。



駆除の前に、準備体操!



さあ、花もつぼみも根こそぎ抜こう!



ニホンタンポポの種、次の春が待ちどおしい。



いっぱい抜いた。なんと29袋!